

今回の留学は、自身にとって3度目の長期留学となり、明治大学での卒業必要単位を所得した上で挑んだ。留学前の準備で、おそらく最も重要なことは、JASSO 奨学金の申請、ビザの申請、留学保険料や渡航費などの費用をどのようにして工面するのかという点だと思う。JASSO 奨学金の申請に関しては、完全給費型ということもあり、申請書類の量も多かった。ビザの申請に関していえば、オンラインで申請を行い、窓口に行く予約を取らなければならず、大使館にただ行ってビザを申請できるものではなかった。

レンヌ商科大学とのコミュニケーションは、まず初めに、アクセプタンス・レターをメールで得るところから始まり、この手紙がないと、フランス大使館にビザの申請を行うことが出来なかった。基本的に、フランス大使館は、あまりスピード感をもってビザ発給を行っていないため、早い段階からの準備が必要になる。そして、この手紙を受け取ったのちに、重要なことは、寮の選定である。基本的に、最初は月 500€程度の民間の賃貸部屋などを進めてくるが、CROUS という月 165€程度で個人部屋を借りることが出来る寮があるので、お金をあまり使いたくない人にとっては、この CROUS の紹介のメールを待った方がよい。そして、この CROUS の部屋数には数の限りがあるため、先着順で部屋が埋まっていくことになるので、注意が必要だ。最後に、大学側にいつに現地に着く予定かという事を知らせることによって、その情報がボランティアの送迎チームと共有され、彼らが指定の場所で留学生をピックアップし、自身のかりた部屋まで送ってくれる。

私が借りた部屋は、上記した CROUS の部屋で、月に 165€が寮費だった。この値段は、レンヌでも非常に安いほうの部類に入る。この寮費には、WIFI 費、水道光熱費が入っている。また、枕以外の寝具が一式無料で借りることが出来る。部屋の中身は、日本の典型的にワンルームより多少広い程度の部屋であり、すべての家具がそろっていた。寮での生活は、キッチンとシャワーの共用ではあったが、非常に快適であった。

レンヌでの生活は、大学の授業を中心に生活し、週末はほぼ毎週パリに、TGV にのって出かけていた。現在、TGV は学生向けに TGV MAX という乗り放題チケットを一カ月 79€で販売しており、そのチケットがあれば基本的にフランス国内すべてに旅行が出来る。よって、そのチケットと共に、パリに思う存分行くことが出来た。大学生活は、授業を7つ取ったため、非常に多忙を極めた。

個人的な意見ではあるが、レンヌ商科大学の交換留学生向けの授業のレベルは、高くないと感じる。というのも、レンヌ商科大学は、ビジネススクールであるため、理論を全く持って教えていない。そのため、各授業の厚みが全体的に不足している印象を受けた。また、グループプロジェクトに力点を置いているため、座学の時間が少ない。プレゼンテーションのスキルが高ければ、非常に有利な印象を受けた。履修した科目は、French Language, Business to Business marketing, Strategic human resource management, Corporate social responsibility, Advertising, Small business and entrepreneurship management, Managing cultural diversity の7つであった。この科目の中で一番レポートとプレゼンテーションの量が多かったのは、Advertising で、授業全体の難度が高かったのは、Business to Business marketing であった。

今回の留学の成果を上げるとするならば、学術的な面では、プレゼンテーションの技術が上がったのではないかと考えている。そして、生活面では、とても息の合う素晴らしい友人と出会うことができ、非常に幸せである。交換留学という性質上、友達自体は作りやすいが、留学終了後も頻繁に連絡を取り合うような友人の数は限られるため、なおさらうれしかった。

帰国の準備に対しては、飛行機のチケットを早めに抑える事を意識した。冬休みの時期のチケットは通常よりかなり高かった。

皆さんへのメッセージとしては、学生時代の留学は、人生を大きく変えるきっかけに十分になりうる、大きな経験だと考えている。私は、大学2年時に、ロシアのモスクワに1年間の認定留学をし、帰国後大学を1年間休学し、ロシアのサンクトペテルブルクに再度留学した。そして、明治大学での卒業単位を所得した上で、大学最後の学期をフランスで過ごした。いま、私が大学時代を簡単に振り返ってみると、これら留学から得ることが出来たことは、自分へ対する自信、多様な価値観の享受、そして国籍も肌の色も違うが心が通じ合う友人たち、の3つに集約できると考えている。そして、これらが自分の人生に新たな色をもたらしてくれたのは、間違い。留學生活中、辛いことも楽しいこともあると思うが、そこを真正面から受け止めることで留學生活に深みが出るのではないかとも感じる。皆さんもコスモポリタンのような、一つの国に縛られない、国際人としてスタートのためにも、留学をすることは非常に価値のあることだと考える。よって、留學中にさまざまなことにチャレンジし、かつ勉強して、留學生活を充実したものにしてほしい。